

台風通過時の立山の気象

2009年10月8日の午前5時過ぎに愛知県の知多半島付近に上陸した台風18号は、富山県内にも暴風雨をもたらしました。当日は立山に設置してある観測機器のうち、上ノ小平から室堂平に設置してある雨と霧の観測機材を全て撤収する予定を立てていました。しかし、悪天候のため、撤収作業は10日に延期しました。台風18号の通過時に立山はどのような気象状況だったのかを、得られたデータから調べてみました。

台風の接近により気圧が最も低下したのは富山市内も立山の美松坂も10月8日の午前6時30分から7時の間でした(図1-17)。風に関しては、富山市内(富山地方気象台)では、8日の午前2時頃から12時すぎまで、平均風速が10m以上の北東から北の風が吹きました。平均風速は午前5時から6時頃にかけて最大となり、20m程の北東の風が吹きました。(図1-18)これに対して、美女平では、北側にある大辻山の陰になるためか、8日の午前6時頃から午後5時頃までは南西から南よりの風が吹き、平均風速が最大となったのは台風が通り過ぎた午後12時過ぎで、9m程度の南西の風が吹いていました(図1-18)。

雨が降り出したのは、立山では7日の午後6時頃からのようでした。富山市内でもこの頃から雨が降り始めているようです(図1-19)。

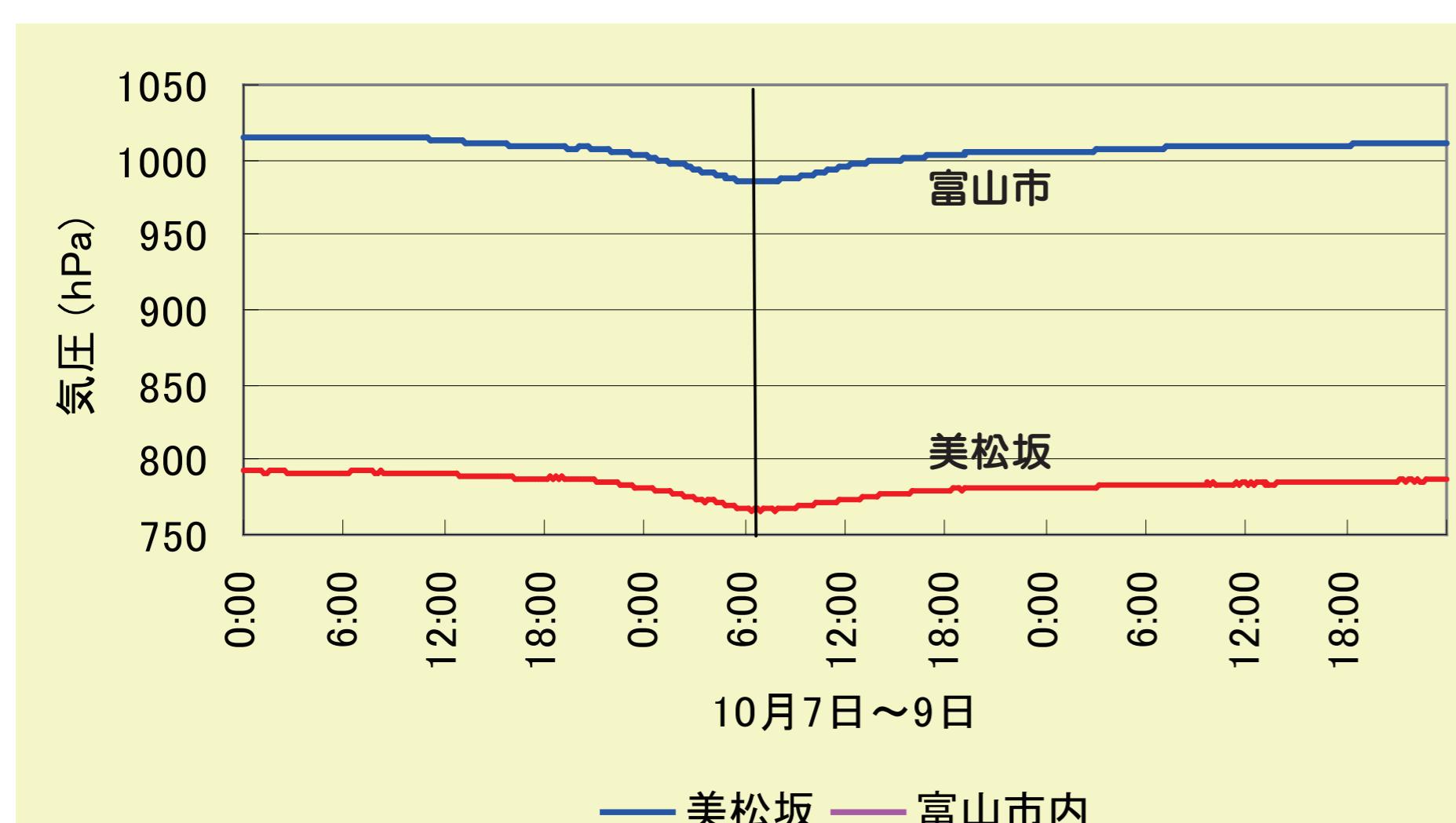


図1-17 台風通過時の富山市内と美松坂の気圧変化
富山市内は富山地方気象台での観測値、美松坂は碁石谷に設置した水位センサーの気圧補正用に設置した気圧計によるもの

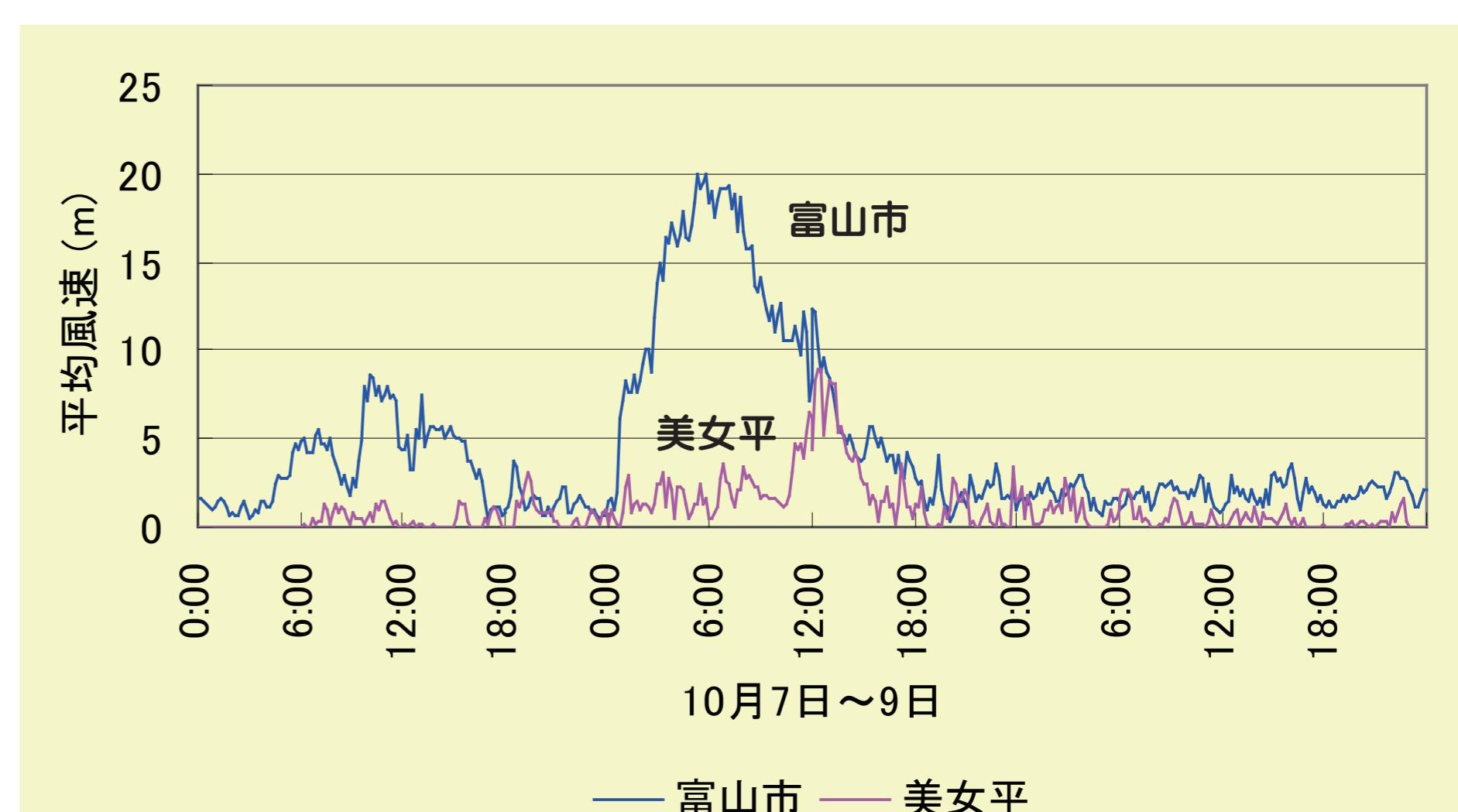


図1-18 台風通過時の富山市内と美女平の平均風速変化
富山市内は富山地方気象台での観測値

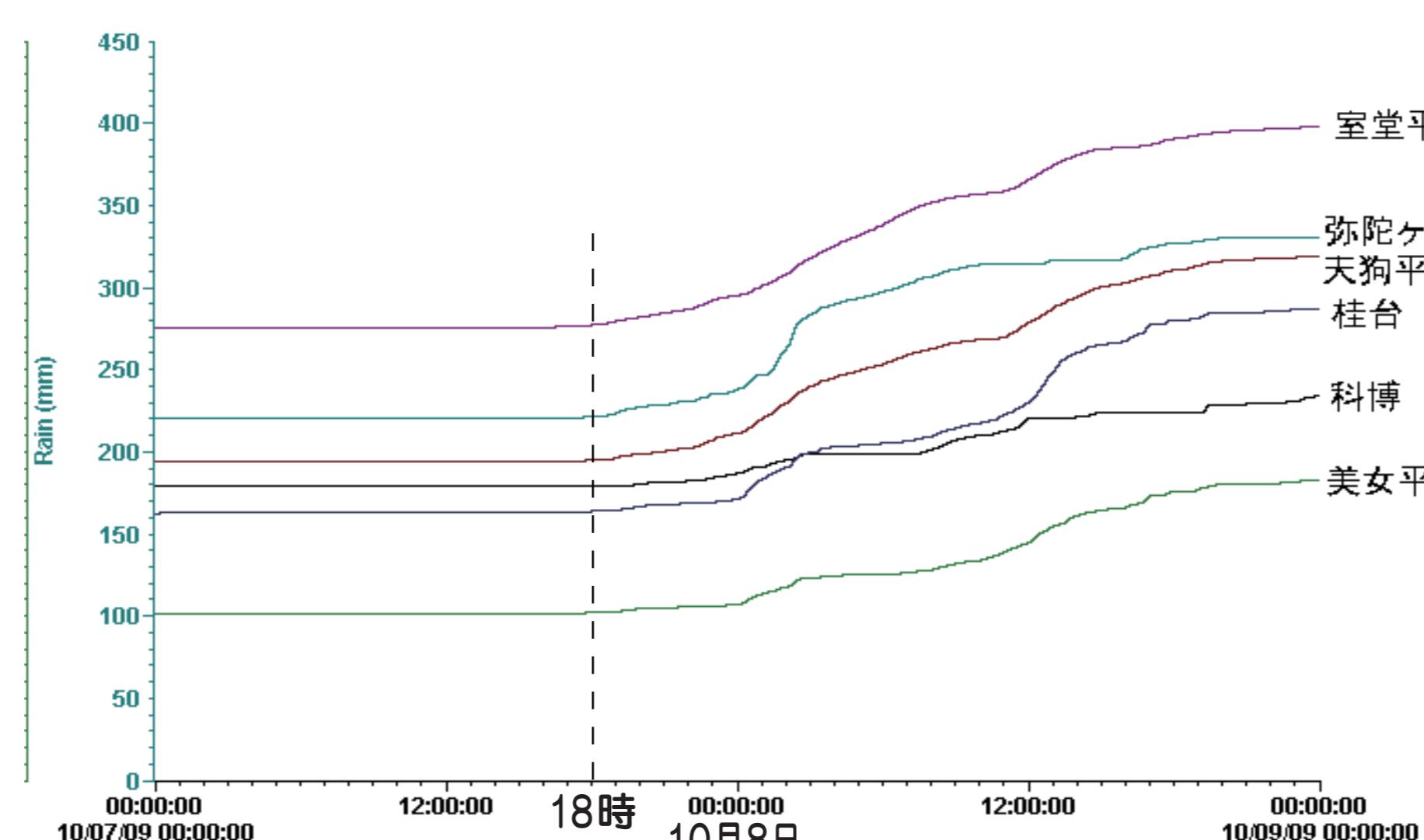


図1-19 台風通過に伴う立山の観測点と科学博物館における降水量の変化